

IV 実践研究

— 中学部 —

1 はじめに

本研究において、中学部では、各教科等を合わせた指導である生活単元学習を研究の対象とした。特別支援学校学習指導

要領解説各教科等編(文部科学省, 2018)の中で、「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである」とされている。生活単元学習では、子どもの目的意識や課題意識に沿った多様な単元構成や授業展開が可能であり、実際の生活の中で生きて働く力を育成するための有効な指導形態の一つと考える。

この生活単元学習を含む各教科等を合わせた指導について、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育部会による「特別支援教育部会における審議の取りまとめについて(報告)」(文部科学省, 2016)において、「必ずしも各教科等の目標が十分に意識されずに指導や評価が行われている場合がある」「各教科等の目標・内容を関連付けた指導及び評価の在り方が曖昧になりやすく、学習指導の改善に十分に生かすににくい」などが指摘されている。本校の中学部における生活単元学習の実践においても、活動への取組の姿を捉えて評価することに留まり、各教科等の資質・能力がどのように育まれたのかについては、教員間での課題意識の共有が必ずしも十分とは言えない現状である。また、「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりという視点については、どのような評価の内容が次単元以降の学習につながるのかが不明確であり、単元間のつながりを意識した取組も十分ではなかった。そのため、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、指導と評価を一体化させながら学びの充実を図ると

もに、そのような授業を通して、何が身に付き、どのようなことができるようになったのかという学習の成果を的確に捉える学習評価が重要な課題となっている。

そこで、中学部では、生活単元学習における「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりの重要な視点を明らかにすること及びそれを踏まえた授業設計、授業実践、学習評価、評価に基づく授業改善という授業づくりの過程を整理して示すことを目的とした。

2 研究の方法

研究の目的を達成するため、以下の計画によって取り組むこととした。

- ①各教科等の内容を位置付けた生活単元学習の年間指導計画の作成
- ②生活単元学習における「個が生きる授業」と具体的な子どもの学びの姿の明確化
- ③生活単元学習の授業づくりにおける重要な視点の明確化
- ④生活単元学習における授業づくりの重要な視点を踏まえた授業づくりのプロセス(過程図)の明確化
- ⑤授業計画シートと評価シートを活用した生活単元学習の授業づくり(設計・展開・評価)
- ⑥生活単元学習における学習評価の方法と考え方の明確化

3 研究の経過

(1)生活単元学習で育てたい力

中学部では、学校教育目標や生徒個々の実態を基に、中学部の生活単元学習で育てたい力を以下の3点に整理するとともに、個別の指導計画及び年間指導計画を作成した。

○課題解決力

生活上の目標達成に向けて取り組む過程において、直面する課題を解決しながら主体的に活動する力

○人と関わる力

自分と他者の気持ちや考えを踏まえ、目標達成に向けて、友達や教師と適切に関わりながら活動する力

○各教科等の資質・能力

実際の生活の中で生きて働く力(知識及び技能, 思考力・判断力・表現力等, 学びに向かう力・人間性等)

(2)生活単元学習における「個が生きる授業」

「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりを行う本研究において、次単元以降の学習に生かされた学習評価の内容を整理した結果、それは、「教科の内容に関わる視点での評価」と「学習活動への取り組み方に関わる視点での評価」の二つに分類された。後者の「学習活動への取り組み方に関わる視点での評価」は、教科の内容をどのように学習したのかという学習過程において期待する学びの姿に関わる内容である。授業づくりにおいて、生徒個々に期待する学びの姿を引き出すことのできる授業を実現していくことが必要と考える。

生活単元学習における「個が生きる授業」については、中学部の生活単元学習で育てたい力と、本研究における「個が生きる授業」の定義を踏まえ、以下のように定義した。

目標達成に向け、自分にできる方法を考えたり他者と協力したりしながら、主体的に課題を解決しようとして取り組む授業

(3)指導と評価の一体化に基づいた授業づくりの重要な視点

生活単元学習における「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりにおいて、重要となる視点について、「個別の指導計画と年間指導計画の活用」「子どもの姿のイメージ化と捉え方」「単元計画と評価計画」「授業記録に基づいた単元の評価」「チームでの目標・評価の共有」の五つの視点から検討した。

①個別の指導計画と年間指導計画の活用

年間を通じて、各教科等の内容を偏りなく取り扱い、生活単元学習で身に付けてほしいと考える各教科等の資質・能力を効果的に育むことができるようにするため、従来使用していた年間指導計画の様式の中に、個別の指導計画を基に単元ごとに取り扱いが想定される各教科等の内容を記載する枠を加えた(図22)。

月	単元名	主な学習活動	取り扱う教科
4			
5			
6			
~~~~~			
1			
2			
3			

図22 各教科等の内容を位置付けた生活単元学習における年間指導計画

## ②子どもの姿のイメージ化と捉え方

「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりにおいて、適切な学習評価を行っていくためには、単元及び各時の学習集団全体と個別の目標を適切に設定していくことが必要である。適切な目標を設定するには、「生活単元学習に関わる生徒個々の的確な実態把握」と「学習集団に適した題材設定」が重要になると考えた。

生活単元学習は、実際の生活に即して学習が展開されることから、生活の中での子どもの様子を多面的に把握することが重要であり、その内容は多岐に渡ると考えられる。しかし、生徒個々の実態をすべて把握し、包括的に取り扱っていくことは難しく、焦点化して把握する必要がある。中学部では、周囲の環境、即ち、教師

や友達などの「人との関わりに関すること」、取り扱う物や場所、状況などの「物との関わりに関すること」、さらに、これらの人や物に働き掛けながら、課題の解決に向けてどのように取り組むのかということが重要であると考え、生活単元学習に関わる生徒の実態把握を、「人との関わり」「物との関わり」「活動の取り組み方」(研究紀要第13号(2000)を一部修正)の三つの視点から行うこととした。これら三つの視点の内容を表7に示す。

また、研究紀要第13号(2000)の中で、題材設定の際に、「生活性」「活動性」「課題性」の三つの視点から検討し、題材を選定している。この三つの視点は、「特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説－養護学校(精神薄弱教育)編－」(文部科学省, 1991)の中で、望ましい生活単元学習として備えるべき条件に挙げられている内容を基に整理し、重要な要素を抽出して設定したものである。本研究では、この三つの視

点の内容を一部修正して取り入れることとした(表8)。

**表8 題材設定に関わる三つの視点**

視点	内容
生活性	○生徒の生活に基づいた興味・関心のもちやすいものか (興味・関心や既有経験に関すること) ○実際の生活に生きて働く資質・能力の習得ができる題材か
活動性	○実態差の大きい集団に適応しうる活動の多様性があるか ○個々に応じた活動の質や量が確保できるか
課題性	○集団としての関わりを通した課題解決場面が設定できるか ○個々の目標に応じた課題解決場面の設定が可能な題材か

**表7 生活単元学習の実態把握に関わる三つの視点**

視点	必要と考える情報
人との関わり	<b>【個別】</b> ○対象(身近な人, 特定の人, 関わりの少ない人など) ○内容(共有, 共同, 協力, 援助など) ○コミュニケーションの内容と手段(依頼や要求などとその表現方法) ○関わりへの対応(概念や指示内容, 文字や文章などの理解)
	<b>【集団】</b> ○集団の中での関わりの様子(積極的に関わっている, 一人でいることが多いなど)
物との関わり	<b>【対象】</b> ○好み(材質や感触, 感覚的な過敏・鈍麻の有無など) ○物の扱い, 場面(場所)における行動(新しい, 知っている, 高度な)
	<b>【方法と状況】</b> ○操作・状況判断(一人で, 用途や状況に応じて, 手順に沿ってなど)
	<b>【準備・片付け】</b> ○何をどこに(身の回りの物, 制作や調理に関わる活動など)
活動への取り組み方	<b>【主体的な行動の姿】</b> ○活動・課題に関すること(興味・関心, 難易度, 生活経験など) <b>【見通しに関すること】</b> ○活動理解(活動内容や目的の理解, 手掛かりの活用など)

### ③単元計画と評価計画

#### ア 生活単元学習の考え方に基づいた

##### 目標設定と単元計画

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりすることを目指して取り組む学習である。そこで、生活単元学習の目標を設定する際には、中学部の生活単元学習で育てたい三つの力のうち、課題解決力に重点を置くことが必要と考えた。また、児童生徒が生活上の目標の達成や課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるように、課題の解決過程、即ち、「目的意識の発生→状況の把握→課題意識の発生→課題解決方法を探る→解決行動を起こす→解決する」(1992, 本校研究紀要第10号)の過程を踏まえることとした。したがって、目的を達成していくための課題を見出し、その課題を解決していく生徒の具体的な姿を想定しながら目標を設定して実践し、評価していくことを大切にしたいと考えた。そこで、中学部の生活単元学習では、何のために活動に取り組むのかという単元を通してあることを成し遂げたいという生徒の目的意識と、その目的の達成に向けて課題となる事柄を解決しようとする課題意識を想定しながら、生活に必要な力を踏まえ、学習集団全体及び個別の目標を設定することとした。さらに、単元を通した目的の達成に向け、生徒が自らの思いや願いに沿って思考・判断しながら課題の解決に取り組むことができるように、単元を計画することが重要と考えた。

##### イ 評価計画(評価場面と教科の内容)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)(文部科学省, 2018)では、学習評価について、「各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」と記されている。

中学部では、単元を通して、生徒たちが教科

の内容を豊かに含んだ活動に主体的に取り組み、課題を解決しながら生活に必要な力を身に付けていくことができるように、生活単元学習の考え方に基づいて単元計画を作成している。そして、単元のまとまりの中で、生徒一人一人の各教科等の学習状況を的確に捉えて評価していくとともに、授業改善をしながらより質の高い授業を目指し、以下の2点から検討し、評価計画を作成している。

##### ○評価の場面と内容(いつ、何を評価するのか)

単元目標の達成に向け、活動のまとまりごとに各時の全体目標や取り扱う活動の内容を検討しながら単元計画を作成する。そして、各時で中心となる課題解決の場面において、各教科等の見方・考え方を働かせながら、課題を解決しようと思考・判断する姿や活動に取り組む姿など、各時で取り扱う教科の内容を具体的に想定して計画する。なお、単元計画を立てる際の評価計画では、各時の課題解決の場面において、学習集団全体に係る中心となる教科の内容のみを選定しておく。実際に活動に取り組む中で、生徒個々の思考・判断や取組は様々であるため、各時において、個々の生徒で取り扱う教科の内容も変化していくことが想定される。そこで、個々の生徒が学習する教科の内容については、各時の展開を計画する際に、個別に取り扱う教科の内容を設定することとした。

##### ○評価方法(どうやって評価するのか)

評価する方法については、各時の目標や活動内容を踏まえて、単元を通して中心的に取り扱う各教科等の学習状況を的確に捉えることができる時期を設定し、誰とどのように評価していくのかを検討する。また、各時の観察記録のような生徒の思考・判断等の様子が分かる資料を使用して評価する等、単元を通して期待する姿を捉えるための評価方法を明確にしておく。

##### ④授業記録に基づいた単元評価

中学部では、生活単元学習における「個が生きる授業」の実現に向け、生活単元学習の考え方に基づいて単元を計画し、生徒が活動に主体

的に取り組み、課題を解決しながら生活に必要な力を育てていくとともに、効果的な授業改善を図りながらより質の高い授業づくりを目指している。その際の生活単元学習の目標は、生活に必要な力を踏まえて設定している。一方で、評価に当たっては、各教科等の学習状況を把握する観点から、活動の中に豊かに含まれる各教科等の内容について確実に評価していくことが必要となる。そこで、単元を通した学習評価の充実を図るとともに、各時で必要な学習評価の内容と指導の評価の内容を整理し、単元終了時の評価の考え方について検討した。学習評価と指導の評価を行う際には、各時の評価シート(図23)を活用して評価の内容を授業者間で検討しながら記録した。

### ア 学習評価

学習評価については、各時の個別目標から、目標を達成するために必要な課題解決活動を設定し、その課題解決場面において、各教科等の見方・考え方を働かせ、思考・判断しながら課題の解決に取り組む姿について、想定していな

かった教科の内容も含めて評価し、記録する。そして、各時で記録した学習評価の内容を基に、単元終了時は、生徒の学習状況を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の三つの観点から、教科の内容のみを評価する(図24)。年間指導計画で取り扱うと想定して記載した各教科等の内容については、単元を通して評価した教科の内容と照合し、必要に応じて修正を加える。

### イ 学習評価に基づいた指導の評価

指導の評価は、学習評価を基に、授業改善に関わる内容として、大きくは生活単元学習の目標と学習活動の二つの視点から検討する。

生活単元学習における「個が生きる授業」を目指し、より質の高い授業となるよう、授業改善に関わる評価として、学習集団全体の単元目標と単元計画に対する評価を行う。評価の際は、題材設定に関わる「生活性」(興味・関心のもちやすいテーマだったか、生活に生かしやすいものであったか)、「活動性」(活動量は十分にあったか、個々に対応しうる多様性があったか)、「課

次	時	本時の全体目標		
		教科の内容における評価規準	教科の内容の評価(評価計画に沿った記述評価)	指導の評価
-	1	【生徒A】		
		【生徒B】		
		【生徒C】		
		【生徒D】		
		【生徒E】		
		【生徒F】		

図23 各時の評価シート

題性) (個々の課題を達成することのできるテーマや活動になっていたか、集団としての関わりがどうであったか) の三つの視点から、個別に「○: 十分だった」「△: 不十分だった」で評価し、次単元以降の授業改善に必要な内容について記述するようにした(図 24)。

また、具体的な授業改善に関わる内容について、「目標の妥当性」「活動内容と単元計画」「手立ての妥当性と教師の関わり」の三つの視点から検討した。三つの視点とその内容を下の枠内に示す。なお、単元の中で改善できる内容については、教師間の対話や口頭で確認を行い、単元評価を行う際に必要となる内容や、次単元以降、継続して生徒の学びや活動への取組が促されるもの、他の学習場面に汎用できるものなどについては記録するようにした(図 24)。

- 目標の妥当性
  - ・目標が未達成の場合、「人との関わり」「物との関わり」「活動への取り組み方」の生活単元学習に関わる実態を把握する視点から目標の見直し
- 活動内容と単元計画

- ・設定した各時の個別目標を達成することができる課題解決場面であったかどうかの検討
- 手立ての妥当性と教師の関わり
  - ・特に有効だと考えた支援内容とその理由の記録(継続して行うことで生徒の学びや活動への取組が促されるもの、他の学習場面に汎用ができるものなど)
  - ・具体的に改善が必要だと考えられる支援とその理由の検討

### ⑤チームでの目標・評価の共有

「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりを効果的に行っていくためには、単元終了時に評価した内容を教師間で共有し、生活単元学習の次単元以降の学習につなげていくことが重要である。そのためには、生徒個々の取組の様子や学習状況など、より確かな学びの姿を多様な視点から捉え、評価の妥当性を高めていく必要がある。また、生活単元学習は、単元の内容や生徒の思考・判断の流れに沿って授業改善を図っていくため、取り扱う教科の内容も変化す

単元を通して取り扱った教科の内容の評価(学習評価)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
生徒 A			
生徒 B			
生徒 C			
生徒 D			
生徒 E			
生徒 F			

単元に対する評価(指導の評価)

単元目標を評価する際の視点	生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D	生徒 E	生徒 F
生活性 (興味・関心のもちやすいテーマだったか、生活に生かしやすいものであったか)						
活動性 (活動量は十分にあったか、個々に対応しうる多様性があったか)						
課題性 (個々の課題を達成することのできるテーマや活動になっていたか、集団としての関わりがどうであったか)						
【全体に関する指導の評価】						

図 24 単元評価シート

ることが想定される。そこで、これまでの学習状況等を個別の指導計画を活用しながら検討・共有していくことで、より妥当性の高い目標を設定するとともに、各教科等を合わせた指導と教科別の指導との相互の関連を図り、資質・能力をより確かに育てていくことが必要と考える。

#### (4) 生活単元学習における授業づくりの過程

中学部の生活単元学習における「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりを行うにあたり、生活単元学習における重要な視点を踏まえて作成した授業づくりの過程を図 25 に示す。

### 4 指導の実際

前述した生活単元学習における授業づくりの過程に沿いながら、「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりにおける重要な視点を踏まえ、生活単元学習の授業づくりを行った。

#### (1) 「個が生きる授業」における生徒の具体的な取組の姿の検討

生活単元学習における「個が生きる授業」について、本校で目指す学びの姿(個が生きる授業)と中学部の生活単元学習で育てたい力(「課題解決力」「人と関わる力」「各教科等の資質・

能力)を踏まえ、前年度の生活単元学習における生徒の取組の様子から、生活単元学習で目指す「個が生きる授業」について検討した。中学部の生活単元学習における「個が生きる授業」には、「㉔ 目的意識に関すること」「㉕ 課題を解決するための方策に関すること」「㉖ 課題意識と具体的な取組の姿に関すること」の三つの視点が含まれており、それぞれの視点について、生徒の取組の姿を想定して授業づくりに取り組んだ。三つの内容に関わる生徒の取組の姿を下の枠内に示す。

#### (2) 年間指導計画の作成

生活単元学習における「個が生きる授業」の実現に向け、前年度までの個別の指導計画の評価を踏まえて、単元名や主な学習活動と各単元で設定する課題解決場面を検討し、重点が置かれると想定される教科の内容を単元ごとに位置付けながら年間指導計画を作成した。年間指導計画については、生徒たちの取組の様子や個別の指導計画で設定した目標の達成状況に応じて、必要な単元を追加したり、計画した単元を修正したりするようにした。今年度作成した年間指導計画を表 9 に示す。

##### ㉔ 「目的意識に関すること」

- ・ 設定した目的が達成された状況を意識している(長期的に目的を意識できる生徒)
- ・ 自分が取り組む活動を意識している(短期的な目的を意識できる生徒)

##### ㉕ 「課題を解決するための方策に関すること」

- ・ 視覚的な情報を手掛かりに、教師の助言を受けて取組の方法や取組の改善点を考えている
- ・ 教師の助言や用意された手順書等の視覚的情報を手掛かりに、取組の方法が分かる(分からないことがあるときは、自分から教師に方法を尋ねる)
- ・ 教師の促しや働き掛けを受け入れて友達に取組の方法を聞き、自分のやる事が分かる
- ・ 教師の言葉掛けや師範を手掛かりに、活動の内容が分かる

##### ㉖ 「課題意識と具体的な取組の姿に関すること」

- ・ 教師や友達と考えた方法を使って、課題の解決に向けて試行しながら取り組もうとしている
- ・ 活動や取組の内容が分かり、自分で必要な道具を用意したり課題解決に向けて考えたりしながら取り組んでいる
- ・ 教師の助言や友達のを考えを受け入れて取組の方法を修正しようとする

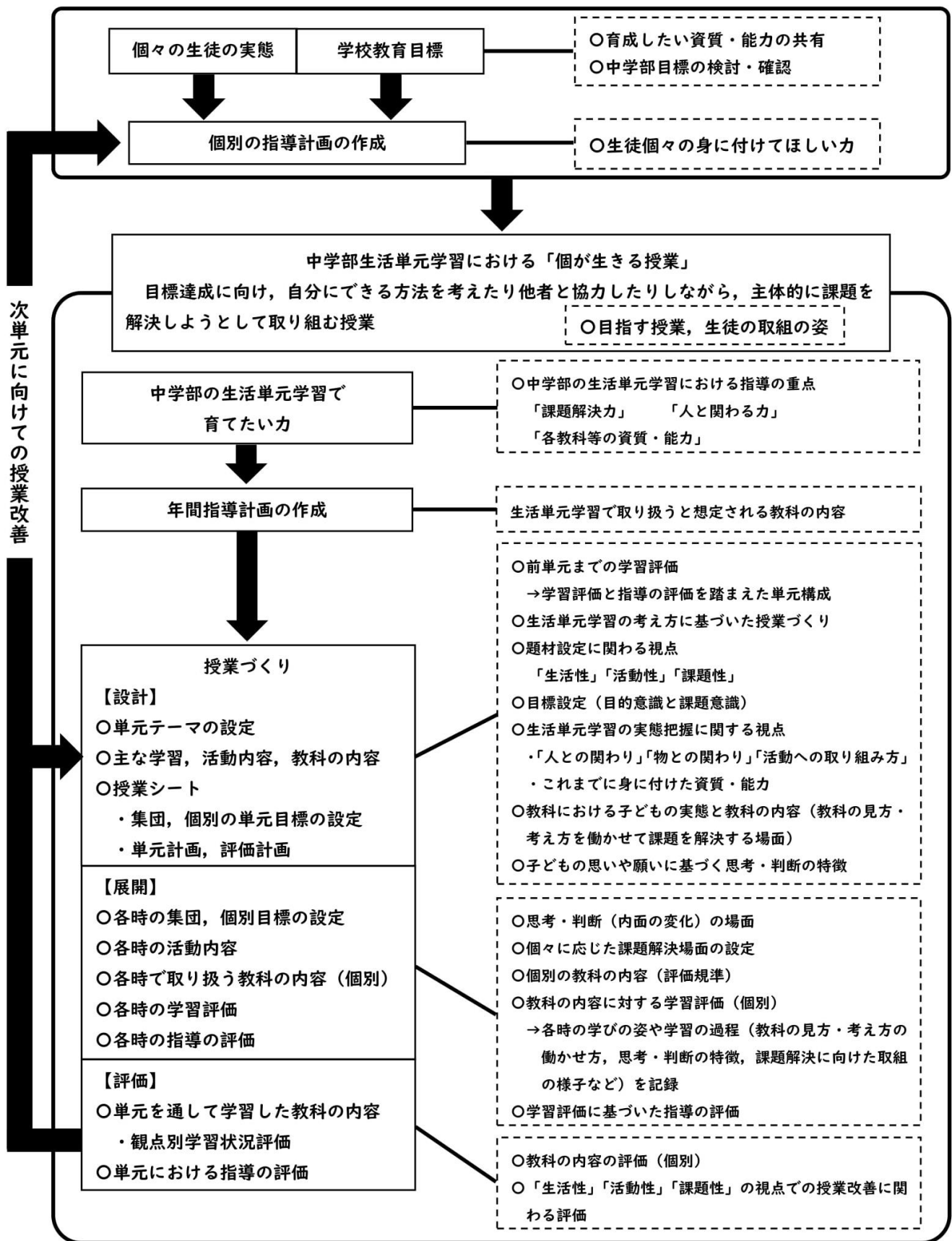


図 25 生活単元学習における授業づくりの過程



**表9 生活単元学習における年間指導計画**

— 中学部 第2学年の例 —

月	単元名	主な学習活動	取り扱う教科
4	○新入生歓迎会をしよう	○自己紹介ブックを作成する ○歓迎会の出し物を考える	○国語 ○体育
5	○母の日のプレゼントを作ろう	○母の日のプレゼントを制作する	○美術 ○理科
	○運動会を成功させよう	○運動会を盛り上げる応援グッズを作る ○招待状を作る	○国語 ○美術
6	○豆腐を作ろう	○大豆を加工して豆腐を作る ○豆腐を使って料理を作る	○職業・家庭 ○数学 ○国語
7	○校外学習に行こう	○校外学習に向けて、準備する物を考えたり、しおりを作ったりする	○社会 ○国語
9	○秋のスポーツフェスを開催しよう	○運動会で実施する競技やそのルールについて考える ○競技で盛り上がる曲を考える	○体育 ○特別活動 ○音楽
10	○宿泊学習をしよう	○1日の生活スケジュールや必要な活動を考える ○みんなで楽しむことのできるレクリエーションを考える	○生活 ○社会 ○特別活動 ○職業・家庭
	○秋祭りをしよう	○祭りの出店について考える ○お客さんを招待して祭りを開催する	○職業・家庭 ○数学 ○社会
11	○学校祭を成功させよう	○学校祭に必要な道具を作ったり、ポスターや招待状を作成したりする	○美術 ○国語
12	○畑をしよう	○破損している畑の囲いを修繕する ○時期に合った野菜を選んで栽培したり、畑の看板を作ったりする	○職業・家庭 ○理科 ○美術
1	○お正月を楽しもう	○お正月遊びを基に、巨大たこや人間すごろくなどのみんなで楽しむことのできるレクリエーションを考える	○社会 ○国語 ○美術
2	○のれんカーテンを作ろう	○更衣室に設置する目隠し用のカーテンを制作する	○美術 ○職業・家庭 ○国語
3	○栽培した野菜で料理を作ろう	○自分たちで栽培した野菜を使って、作りたい料理を考えたり、調理したりする	○職業・家庭 ○国語

**(3) 単元計画シートを活用した授業設計**

中学部の生活単元学習における「個が生きる授業」と、年間指導計画を踏まえて、授業づくりを行った。授業づくりを行うにあたり、本研究を通して作成した計画シートを活用し、内容を整理しながら取り組んだ。計画シートに記入する項目は、「単元名」「これまでの評価を踏まえた単元設定(単元設定の理由や単元を通して学習集団全体で期待する姿)」「単元目標(学習集団全体)」「単元に関する実態と単元目標(個別)」「単元計画と評価計画」の五つで構成されている。

**(4) 単元「豆腐を作ろう」の実践**

本稿では、中学部2年生で実施した単元「豆腐を作ろう」の授業づくりを取り上げ、計画シートに沿って、以下に概要を示す。

**①これまでの評価を踏まえた単元設定**

これまでの生活単元学習における取組の様子に加え、取り扱うと想定される教科の内容に関する生徒の情報を共有しながら妥当性の高い題材選定や単元計画を行うために、授業者だけで

なく、学部内の教員で検討した。その際、「これまでの単元評価→単元テーマ(題材設定に関わる視点からの検討)→単元を通して期待する姿」の流れに沿って、生徒の姿を具体的に想定しながら検討ができるように、単元設定検討・共有シートを作成して活用した(図26)。

**②単元目標の設定**

「これまでの評価を踏まえた単元設定」の中で検討した内容を踏まえ、学習集団全体に係る課題と、個々の学習を深めていくための「人との関わり」に関する観点を大切に、学習集団全体の単元目標を設定した。その際、中学部の生活単元学習において、目標を設定する際に大切にしている「目的意識」と「課題意識」を明確にししながら、生活に必要な力を踏まえて設定した。

**【単元目標】**

手作りした豆腐を家族に振る舞って喜んでもらうために、友達と相談したり、友達の取組の様子から自分の取組を見直して方法を修正したりするなど、より良い豆腐となるように、他者と一緒に作り方を工夫しながら豆腐作りに取り組むことができる。

本単元において、生徒に期待する目的意識は、より良い豆腐を作って他者に喜んでもらうことであり、課題意識は、その目的の達成に向けて課題となることを解決しようとするのである。課題を解決するために、生徒たちが友達と相談したり、自他の取組から課題を考え、取り組み方を修正、改善したりしながら、主体的に取り組むことを期待した。

## これまでの単元評価

本学級では、これまでに、友達と話し合いながらみんなが楽しめるゲーム（スポーツ）を企画してスポーツ大会を開催する「中1スポーツ大会をしよう」の単元に取り組んだ。この単元では、やってみようゲームを取り上げて自分たちで実際に取り組み、みんなが楽しめるゲームにするために、分かりやすいゲーム構成に関する視点（安全性や難易度）や、他者の気持ちを類推しながら発言したり行動したりする他者との関わりに関する個々の課題に迫る視点に沿って、生徒同士で話し合う活動に重点を置いて取り組んだ。これら二つの視点を基に考えることで、体験して感じたことや、ゲームのルール、取り扱う道具の工夫点など、学習の目的を意識して考える方向性が分かり、自分の意見や思いを整理しながら他者に伝えることができた。一方で、「みんなが楽しむことのできるゲームを考える」ことについては、「難しかった」「できなかった」という意見が出ると、ゲームそのものが難しいと判断し、工夫しながら再度実践し、工夫前後の違いを確かめながら取り組んでいくことが難しい場面も多く見られた。そのような場面では、個々の意見を発表することに終始したため、話し合いの中で、自他の考えを比較し、自分の考えを見直したり発展させたりするような集団のメリットを生かした学習が不十分であった。集団の中で他者と関わり合いながら自己の学習を深めていくには、集団における「人との関わり」に関する観点が必要であると考える。



## 単元テーマの検討（題材設定に関わる視点から）

これまでに学習してきた内容を基に、課題解決における生徒の取組をより発展させたいと考え、他者と相談しながら取り組んだり、他者の取組の様子を参考に作り方や道具の扱い方などの修正、改善を行ったりしながら取り組むことができる単元として、調理活動を中心とした内容を設定したい。

- ・学習集団編成を工夫し、グループ間での取組の方法を比較したり共有したりすることで、自分たちの取組の課題に気付いたり、取組の違いから学習内容を深めたりすることが可能になるのではないかな
- ・自己の取組を反省的に振り返って改善点を受け入れたり、他者の取組の意図や理由を考えたりするなど、自己に関することや他者との関わりに関する課題に迫ることもできる内容になるのではないかな

生活性	活動性	課題性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちで栽培・収穫した食材を使って調理活動を行うことに対する興味や関心は高い【<b>興味・関心</b>】</li> <li>○手順書の活用や調理過程における計測、器具や火器の扱いなど、学習した内容を生活に生かしやすい【<b>実際の生活に必要な知識・技能</b>】</li> <li>○中学部での調理経験はないが、家庭で調理の手伝いや補助をしている経験のある生徒も多い【<b>生活経験</b>】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工程の数や作る量、また、個々の取組の様子に合わせて柔軟に学習集団（個人、小グループ、学級全員など）や取組の内容を変更することが可能【<b>集団に適應できる多様性</b>】</li> <li>○道具の準備や片付け、取り扱い、必要な道具の選定における工程ごとの判断など、個々の課題に合わせて柔軟に活動を設定することが可能【<b>活動の質と量の確保</b>】</li> <li>○工程が簡潔で、1単位時間の中で全ての工程を通して取り組むことができるため、各時で取り組む内容が分かりやすく、また、「作る→改善」の過程で繰り返し取り組むため、取組における課題を明確にしやすい【<b>活動のめあて、見通しのもちやすさ</b>】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者と相談、役割分担、他者の取組を参考に自分の取組を見直して修正するなど、他者と共に活動に取り組む中で、他者と関わり合いながら取り組むことのできる活動を設定することが可能【<b>集団との関わりを通じた課題解決</b>】</li> <li>○道具の準備や片付け、取り扱い、道具の選定における工程ごとの判断など、個々の課題に合わせて柔軟に取り組むことが可能【<b>個々の目標に応じた課題設定</b>】</li> <li>○手順書の活用や工程の理解、調理に関する課題に応じた方法の修正や改善など、個々の課題に応じた内容を柔軟に設定することが可能【<b>個々の目標に応じた課題設定</b>】</li> </ul>



## 単元設定の理由と単元を通して期待する姿

本単元では、自分の考えを伝えて他者と相談しながら取り組み方を工夫したり、他者の取組の様子から改善案を考えて取り組んだりするなど、他者との関わりを通して自己の学習を深めることを目的とし、「調理」を中心とした活動を設定した。調理活動では、取組の結果を即時的に確認でき、その結果から何が良かったのか、どこを改善すれば良いのかを友達と相談しながら考え、必要に応じて繰り返し試行することができるため、他者との相談活動の充実を図ることができる。活動の際には、グループ内での相談活動に取り組みやすくするために、三つの小グループを編成する。また、各グループの取組の様子を動画で撮影して自他の取組を振り返ることで、取り組み方の違いに気付いたり、自己の取組を反省的に振り返って友達の取組を参考に改善方法を考えたりすることが可能になると考える。自分たちで活動の方法を工夫しながら取り組むとともに、自他の取組方法を比較し、グループや自己の取組の課題に気づき、他者と関わり合いながらより良い方法を考えて活動する姿を引き出すことができるのではないかと考え、本単元を設定した。

図 26 単元「豆腐を作ろう」における単元設定検討・共有シート

### ③個別の実態と個別の単元目標

単元目標を基に、「人との関わり」「物との関わり」「活動への取り組み方」の実態把握に関する三つの視点と、これまでに学習の中で身に付けた資質・能力を踏まえて、単元に関する個別の実態を以下のように整理した(生徒Aの場合)。

#### 【生徒Aの単元に関わる実態】

- 自分たちで栽培・収穫した大豆を使って調理活動を行うことに対する興味や関心は高い。
- 友達と活動する中で、友達から言われたことを受け入れて活動することはできる(友達に意見に左右される、流される)が、その理由を考えて納得しながら取り組んだり、友達に自分の意見を伝えて相談したりすることは難しい。
- 扱う道具や作り方、工程ごとに取り組む内容について、手順書を見ながら自分で考えて取り組むことが難しく、細かく教師に確認をすることが多い。
- 柔らかい感触や粘り気のある感触の物に触ることへの抵抗感はあるが、目的が分かると教師と相談して感触を和らげる方法を考えながら納得したりすることができれば活動に取り組むことができる。また、作る物に対して関心が高ければ、感触を気にせず、意欲をもって取り組むことができることもある。

学習集団全体の単元目標と単元に関する個別の実態を基に、学部教員や授業者間で個別の具体的な取組の姿について検討し、以下のように個別の単元目標を設定した(生徒Aの場合)。

#### 【生徒Aの単元の個別目標】

手作りした豆腐を家族に振る舞って喜んでもらうために、友達と手順書を確認しながら豆腐作りの工程が分かって活動したり、より良い豆腐となるように作り方を工夫したりしながら豆腐作りに取り組むことができる。

### ④単元計画と評価計画

単元「豆腐を作ろう」では、調理活動を中心とする豆腐作りを題材として取り上げた。この豆腐作りは、前年度に実施した「畑をしよう」の単元において、生徒たちが育てる野菜として大豆を選び、収穫した大豆を使って、「学級の生徒たち全員が食べられる豆腐を作りたい」という生徒たちの思いに沿って計画した単元である。また、前年度に実施した単元「校外学習に行こう」では、豆腐工場を見学して豆腐の作り方を調べる活動や、豆腐料理店で食事をするを通して、自分たちで作った豆腐を使って作りたい料理を考えて調理をする活動などを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の観点から、

計画通りに実施できてはいないものもあった。本単元は、これらの単元における内容的な関連を図りながら計画している。

本単元は、全9時間で計画しており、第一次は、これまでに学習したことを基に、豆腐の作り方やそのポイントを整理し、第二次では、実際に豆腐を作り、その出来栄を基に、よりおいしい豆腐にするために相談しながら考えて実行するというように、調理活動と話し合い活動を中心として展開した。そして、第三次は、自分たちで修正を加えながら作成した豆腐のレシピを整理したり、家庭で取り組んだ豆腐作りと、作った豆腐を使った豆腐料理の振り返りをしたりする流れで構成した。単元計画を作成する際に、各時で中心となる課題解決場面において生徒に期待する姿を明らかにするとともに、その取組の中で取り扱う教科の内容と重点を置く観点を設定し、評価計画についても検討した。本単元では、「調理」を中心とした活動を設定しており、実際の豆腐作りの場面では、ミキサーやカセットコンロなどの道具の扱いや、匙や計量カップなどの計器を使った測定など、取り組む過程で職業・家庭科や数学科の内容を中心に教科の内容を取り扱った。

### ⑤「個が生きる授業」の実現に向けて ア 評価計画の修正

第一次の取組において、授業終了時に授業者間で評価をする中で、評価計画では、取り扱う教科の内容と重点を置く観点だけでなく、生徒の思考・判断の様子も踏まえた具体的な姿を想定しながら示しておかなければ、教科の内容を評価することが難しいと確かめられた。この点を踏まえて、第二次以降の評価計画の修正を行った。

第一次の授業では、豆腐作りに関する動画を参考に、自分たちが作りたい豆腐のイメージを共有しながら豆腐作りのポイントを整理した。ポイントを考える際、これまでに食事や調理で目にしたことのある豆腐のイメージも加えながら、生徒は次の四つの視点から整理した。

＜豆腐作りの四つの視点＞

- 固さ：やわらかい
- 形：四角(長方形)
- 色：白色
- 味：豆腐の味(これまでのイメージを基に)  
おいしいと感じる味

この四つの視点は、調理の仕方や図形など、主に職業・家庭科や数学科の教科の内容に関わる視点である。そして、第二次の小単元「豆腐を作ろう」において、豆腐作りの四つの視点を活用しながら、教科のどのような見方・考え方を働かせて課題解決に向けて取り組んでいるの

かという内容を評価計画に付け加えた。計画シートに記載した単元計画と修正した評価計画の内容について、第二次の内容を一部抜粋したものを図27に示す。教科の内容に関わる具体的な取組の姿を想定して評価計画を作成することで、教科の内容を的確に捉えて評価することが可能になった。また、取組の中で想定していた教科の内容に違いが生じた際に、指導の評価の視点から、授業のどの内容を改善すれば良いのかを的確に把握することにつながった。

次	学習活動 (活動のまとめ)	時	本時の全体目標と活動の流れ <small>※本時の個別目標は本時案に記載</small>	評価の計画	本時で取り扱う教科の内容 <small>※教科の内容(個別)は本時案・評価シートに記載</small>
二	豆腐を作ろう	1	<p>【本時の全体目標】 豆腐作りの手順を確認しながら友達と協力して調理活動に取り組んだり、豆腐作りの視点を踏まえて方法を工夫したりして、豆腐を作ることができる。</p> <p>【活動の流れ】 1 グループ(二人ずつの3グループ)に分かれて豆腐作りの工程と準備物を確認する。 2 豆腐を作る。 3 豆腐作りに取り組む中で工夫したことや分からなかったことなど、グループで確認しながら手順書に書き込んだり、工程のどの場面なのか印を付けたりする。</p>	<p>【評価する場面と内容(いつ、何を)】 ○豆腐を作る場面 →固さ(やわらかく)や形(四角/特に長方形)、色、味の豆腐作りの四つの視点を基に、友達と相談しながら作り方を工夫して豆腐を作ろうとしている。 ＜豆腐作りの四つの視点＞ ・固さ：やわらかく ・形：四角(長方形) ・色：白色 ・味：豆腐の味、おいしい (第一次で生徒が考えた視点)</p>	<p>○職業・家庭(家庭分野)/知 B イ(調理の基礎)(ア) ○数学/知 C ア(イ)</p>
		2	<p>【本時の全体目標】 他のグループの取組を撮影した動画やインターネットを活用し、より良い豆腐を作るための工夫点を豆腐作りの視点(固さや形、色、味)を踏まえて考えることができる。</p> <p>【活動の流れ】 1 出来上がった豆腐を見たり試食したりして、豆腐作りの四つの視点(固さや形、色、味)に沿って、調理した豆腐の課題を整理する。 2 他グループの取組の様子(動画)を見たり、インターネットで調べたりして、より良い豆腐を作るための工夫を考える。 3 考えた工夫点を手順書に書き込む。 4 工夫点を発表して、全員で共有する。</p>	<p>○豆腐作りの振り返り場面 ・豆腐作りの四つの視点を踏まえて、豆腐の出来栄を確認しながら課題を明らかにしている。 ・課題の解決のために、インターネット等で作り方(分量や時間などの手順書には載っていない細かい情報)を調べたり、友達の取組の様子(動画)を見て解決方法を考えたりしている。 ・工夫した前後で豆腐がどのように変化したのかを考えて発表することができている。</p> <p>【評価方法】 ○生徒の取組の様子を撮影した動画や写真、教師の気付きのメモなどを活用して検討する。</p>	<p>○職業・家庭(家庭分野)/思 B イ(調理の基礎)(イ) ○国語/思 A ウ</p>
		3	<p>【本時の全体目標】 より良い豆腐を作るために、前時で考えた豆腐作りの工夫を踏まえて調理活動に取り組むことができる。</p> <p>【活動の流れ】 1 グループ(二人ずつの3グループ)に分かれて豆腐作りの工程と準備物を確認する。 2 より良い豆腐を作るために、前時で考えた工夫点を確認して、豆腐作りに取り組む。 3 工夫点を踏まえて、本時でできたことや難しかったことについて、グループで話をして整理する。</p>	<p>○第二次では、授業者間での評価検討を3回設ける。 ・第1時の評価 ・第2時(振り返り)と第3時(豆腐作り)の評価を、第3時終了時に合わせて行う。 ・第4時(振り返り)と第5時(豆腐作り)の評価を、第5時終了時に合わせて行う。</p>	<p>○職業・家庭(家庭分野)/思 B イ(調理の基礎)(イ) ○数学/知 C ア(イ)</p>

図27 単元「豆腐を作ろう」における単元計画と評価計画

## イ 授業改善の取組

第二次で豆腐を作った際は、豆腐作りの四つの視点を基に、インターネットや友達の取組の様子を撮影した動画を使いながら、グループでの話し合いや、豆腐作りの課題とその解決策を考える学習活動を設定した。そして、授業終了時には、各時の評価シートを使い、取り扱った教科に関する学習評価を行った。その学習評価を基に、授業者間で口頭確認や検討を通して指導の評価を行った。

授業において、生徒が豆腐作りに取り組む中で、困ってはいるが、何をどのように改善すれば良いのかが分からず、戸惑っている様子が見られた。そこで、授業者間で取組の様子を撮影したビデオを活用しながら、生徒が改善に取り組まなかった理由について、指導の評価の視点である「目標の妥当性」「活動の内容と単元計画」「手立ての妥当性と教師の関わり」を基に検討した。その中で、豆腐作りで作ろうとしている物の完成形、つまり、生徒の目指すものが不明

確であったため、豆腐作りの四つの視点を活用した相談や試行につながらなかったのではないかと考えられた。そこで、「活動の内容」の視点から、個別の目標を達成することのできる適切な課題解決場面を設定するために、具体的な完成形のイメージをもつことができるよう、再度、豆腐の完成形について豆腐作りの四つの視点を基に確認し、具体的な生徒の取り組む姿を想定しながら学習活動や支援などを改善して、実践した。

その結果、豆腐作りの四つの視点を基に、生徒同士で相談したり友達に働き掛けたりする場面が増えた。そして、友達の取組を参考に自他のグループの取組の違いを考えたり、インターネットで改善策を調べたりすることを通して、自分たちの課題が分かり、その課題を解決しようとする姿も見られるようになった。

### ⑥単元評価

中学部における生活単元学習では、生活に必要な力を踏まえた目標を設定し、単元を計画し

生活単元学習の個別目標に対する評価（生徒A）

単元の個別目標	評価
手作りした豆腐を家族に振る舞って喜んでもらうために、友達と手順書を確認しながら豆腐作りの工程が分かって活動したり、より良い豆腐となるように作り方を工夫したりしながら豆腐作りに取り組むことができる。	<p>○「家族に振る舞うために」という目的を意識し、より良い豆腐となるように改善案や取組の工夫を意欲的に考えながら取り組むことができた。</p> <p>→自分たちで作った豆腐を試食した際に、豆乳が固まらないことや苦くておいしくないことから、「にがりは豆腐を固めるために入れるから、Cグループみたいに、にがりの量をちゃんと計らないといけな」と友達の取組の様子を参考に考えたり、「苦くて黒いのは、焦げたから、焦がさないように火を弱くしたら良い」と調理器具の使い方を工夫したりするなど、課題の原因が何かを考え、その原因を解消していくための改善案を整理しながら取り組むことができていた。</p> <p>○実際に豆腐を作る場面 友達と手順書を見ながら取り組み方や必要な道具を確認して自分がすることと友達がすることを分担したり、手順書に改善方法が書き込まれているときは、取り組む前に友達に見本を見せながら説明したりするなど、工程や方法を確認して取り組むことができた。</p>

教科の内容に対する個別の単元評価（生徒A）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>○職業・家庭 家庭分野Bウ（ア）/中2段階 イメージする豆腐を作るために、友達の取組の様子や発表、教師の言葉掛けや教師が提示した道具の使い方のポイントを参考にしながら取り組むことで、豆腐を作るための過程に必要な道具の使い方や計器の種類とその使い分けについて理解することができた。大豆や豆乳を加工する活動では、大豆を砕いてペースト状にするために水が必要なのに気づき、大豆と水の分量を考えながらミキサーを操作したり、カセットコンロの調節つまみに書かれた目盛りの読み方を理解し、調べて手順書に書き込んだ火の強さに合わせて強火や弱火と調整したりすることができた。</p> <p>○数学 測定ア（ア）◎/中1段階 より良い豆腐を作るために、分量を計る必要があることに気づき、匙や計量カップなど、分量によって計器の種類が変化することや匙一杯の分量、計量カップの目盛りの読み方（水平な場所に置き、目盛りに合わせて目線を下げる）に関する計器の使い方について理解することができた。</p>	<p>○職業・家庭 家庭分野Bイ（イ）中1段階 話し合いの際に、自分たちで作った豆腐を試食して出来栄を確認し、イメージした豆腐の味と違って苦みがあることから、苦みの原因は煮込む場面で焦げたことと関連していることに気づき、焦げ付いた場面の取組の様子を振り返りながら、煮込む長さ（時間）に原因があると考えた。それを確かめるために、インターネットで豆腐の作り方を再度調べたりすると、煮込む際に、火の加減を調整する必要があることに気づき、豆腐作りでは、沸騰させる場面では強火に、長く煮込む場面では弱火に調節しながら取り組むことができた。</p> <p>○職業・家庭 家庭分野Bウ（イ）中2段階 最初に課題の原因として考えた時間についても、インターネットや上手くできたグループの取組の様子（動画）を参考に調べた中で情報（インターネットは10分に対して、他グループは5分で豆腐ができていた）に違いが生じたが、最初は時間を5分に設定して、確認後に再度煮込む必要がある場合は、10分まで時間を延ばすとそれぞれの情報を活用し、より良い豆腐となるよう、調理計画を再度立て直しながら取り組むこともできた。</p>	<p>○職業・家庭 より良い豆腐となるように、インターネットを使ったり友達の取組の様子や発言を参考にしたりするなど、取組の課題を見出し、その課題を解決していくための方法を調べて改善しようと取り組むことができた。調べた際には、手順書にその方法を書き込み、豆腐づくりの際に活用して試行しようとするなど、手順や調理方法、自分の取り組み方を変更しながら取り組むことができた。</p> <p>○数学 友達の様子から、これまでの自分の取組で使っていない計器を使うことで解決できると分かったと、計量カップを準備して水の分量を適切に計測しようとしたり、分量を調節しようとしたりするなど、課題の解決に向けて積極的に取り組むことができた。</p>

図 28 生活単元学習の個別目標と教科の内容の個別の単元評価に関わる重複

単元に対する評価（指導の評価）

単元目標を評価する際の視点	生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D	生徒 E	生徒 F
生活性（興味・関心のもちやすいテーマだったか、生活に生かしやすいものであったか）	○	○	○	△	○	○
活動性（活動量は十分にあったか、個々に対応しうる多様性があったか）	○	△	○	△	○	△
課題性（個々の課題を達成することのできるテーマや活動になっていたか、集団としての関わりがどうであったか）	○	○	○	○	○	△

【全体に関する指導の評価】

- ・どの生徒も興味・関心のもちやすい題材ではあったが、1名の生徒については、調理活動への関心はあったものの、「豆腐作り」への興味の低さが見られた。
- ・本単元では、第一次に教師が作った豆腐をみんなで試食する場面を設定したが、曖昧な完成度の豆腐を提示してしまったことで、どのような豆腐を作るのかという基準が曖昧となり、取組当初はどのような課題を解決しようとしていたのかが生徒たちにとって分かりにくいものになってしまった。「こんな豆腐を作りたい」という明確な基準となる豆腐を提示する、もしくは、教師があえて失敗し、「どうすれば豆腐を作ることができるのか」と展開することで生徒の課題意識を引き出すことができるような単元計画の工夫が必要である。
- ・二人組で調理活動に取り組むようにすることで、ペアの相手をモデルにしながら豆腐作りに取り組むことができるようにした。生徒 B・D・F については、モデルとなるペアの生徒をよく見ながら取り組むことはできたが、どのペアにおいてもモデルとなる生徒が主導しすぎてしまう場面が多く見られたことから、どのようにペアを組むのか、ペア構成の工夫をする、または、ペア構成を変更しないのであれば、活動内容や協力しながら課題解決に取り組むことができる場面を設定するなど、今後の単元では検討が必要である。

図 29 生活単元学習の全体目標に対する単元評価

ている。しかし、各教科等の学習状況を正確に把握するためには、教科の内容に対する学習評価の充実を図る必要がある。そこで、3年次当初、各時の評価シートを基に、生活単元学習の目標に対する学習評価と、単元で取り扱った教科の内容（観点別）に対する学習評価を行い、それぞれの評価の内容について、関連を整理して検討した。その結果、本研究では、単元計画と評価計画を作成する際に、単元や各時で設定する課題解決場面において、重点的に取り扱う教科の内容を選定していることもあり、生活単元学習の単元目標（個別）に対する学習評価の内容と、教科の内容に対する学習評価の内容は、重複しているものが多いことが確かめられた（図 28）。そこで、評価の重複を避けるために、単元の個別の学習評価については、教科の内容に関わる評価のみとし、生活単元学習の単元目標（個別）の学習評価や授業改善に関わる指導の評価については、教師間の対話や口頭での確認を中心に行った。なお、次単元以降の学習に必要な授業改善に関わる指導の評価については、単元終了時に評価を行い、記述した（図 29）。

（5）生活単元学習における評価の考え方

本単元を通した取組の記録を基に、生活単元学習と教科に関わる学習評価の考え方について検討し、生活単元学習における学習評価を図 30

のように整理した。

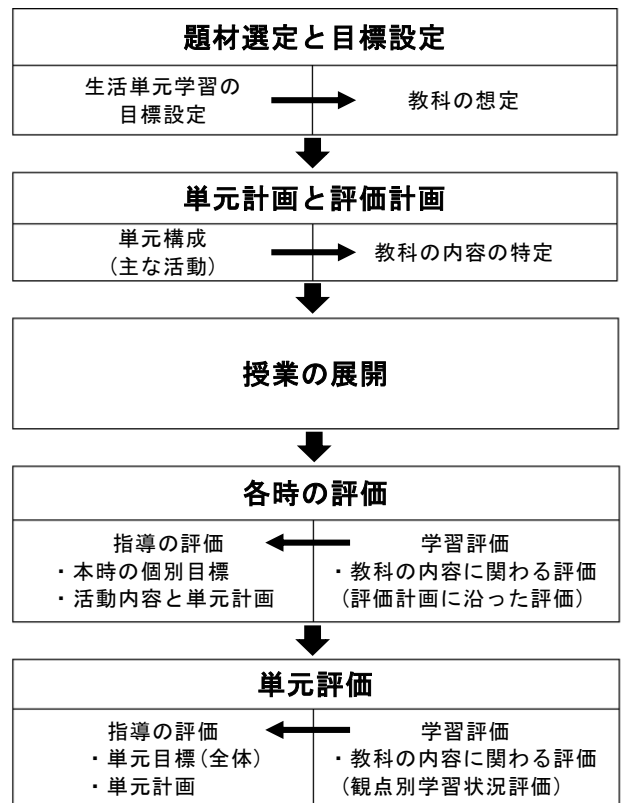


図 30 生活単元学習における学習評価

## 5 今後の課題

### (1) 個別の指導計画と年間指導計画の見直し

授業づくりを行うにあたり、学校教育目標や個々の生徒の実態から、個別の指導計画を作成している。しかし、本研究の取組において、個別の指導計画を十分に活用することができなかつたことが課題として挙げられた。本校の個別の指導計画では、各教科等の全ての内容を取り上げて設定しているわけではなく、個々の実態から必要性が高い内容を抽出し、重点的に目標を設定している。そのため、年間指導計画の作成時に、個別の指導計画を基に教科の内容を選定したり、単元評価を行った際の評価内容を個別の指導計画に反映させたりすることが難しく、活用が不十分となっている。各単元における学習評価と指導の評価を個別の指導計画に反映させながら、生徒の学習状況に応じて年間指導計画を作成したり、修正したりしていくために、中学部で活用している個別の指導計画を見直していく必要がある。教科別の指導、各教科等を合わせた指導において、取組の姿と習得状況を基に、目標設定や単元計画を効果的に作成していくことができるよう、どのような個別の指導計画の内容、形式にする必要があるのかについて、今後、検討していきたい。

### (2) 各教科等を合わせた指導と教科別の指導相互の関連

生活単元学習で取り扱った教科の内容は、必然性の高い活動の中で、生徒が各教科等の見方・考え方を働かせながら課題の解決に取り組む過程において習得したものである。しかし、学んだ内容は、教科の知識や技能に留まっていることも多い。また、教科別の学習においても、学習した知識や技能を実際の生活場面で活用するまでに至っていないものも見られる。学習して習得した知識や技能を、生徒たちが思考しながら効果的に活用し、生活に生きる力として、教科の資質・能力を確かに育てていくためには、各教科等を合わせた指導と教科別の指導におけ

る関連性をさらに高めながら指導していく必要があると考える。

### (3) 教科の指導力を高める

本研究において、生活単元学習における評価の考え方について、中学部教員で検討しながら、目標設定や単元計画、授業の展開、単元評価の各段階における教科の内容の位置付けを明確にすることができた。しかし、現段階では、目標設定や単元計画において、教科の内容を十分に捉え切れておらず、各教科等の見方・考え方についての理解も必ずしも十分とは言えない現状にある。そのため、教科における内容を十分に理解し、各教科等を合わせた指導に関わらず、教科の指導力を向上させることが必要であると考える。